

令和4年度 スポーツによる地域活性化・まちづくりコンテンツ創出等総合推進事業

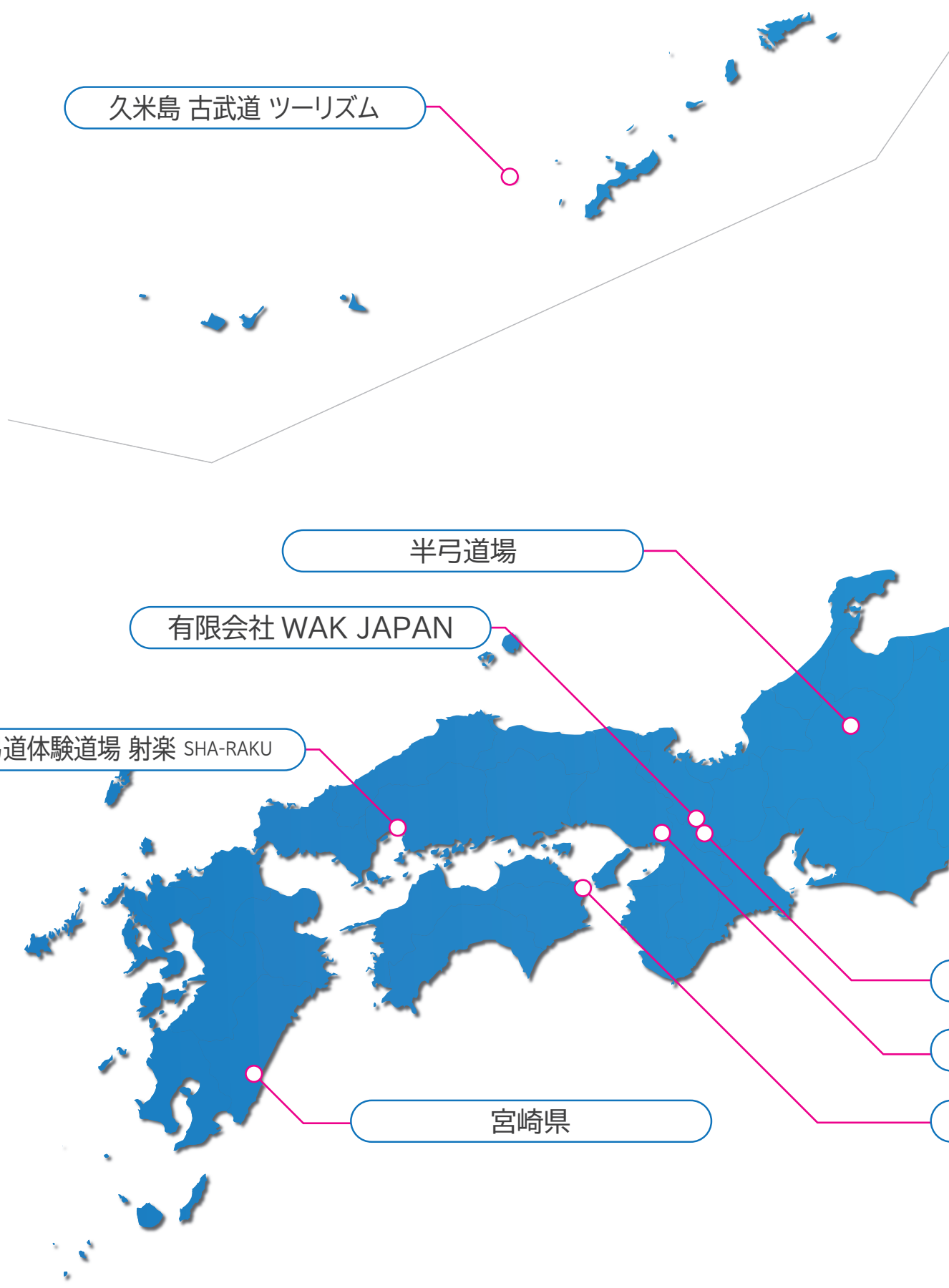
別添
資料

武道ツーリズム取組事例集



スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

掲載施設一覧



久米島 古武道 ツーリズム

半弓道場

有限会社 WAK JAPAN

弓道体験道場 射楽 SHA-RAKU

宮崎県

目次

1. 施設・道場・事業者主体の取組事例

- 合気道養神館本部道場（東京都新宿区） 4
- 横浜武道館（神奈川県横浜市） 6
- 半弓道場（岐阜県高山市） 8
- 弓道体験道場 射楽 SHA-RAKU（広島県広島市） 10
- 有限会社 WAK JAPAN（京都府京都市） 12
- 株式会社 TABIKYO JAPAN（京都府京都市） 14

2. 地域における取組事例

- 久米島町（沖縄県） 16
- 宮崎県 18
- 鳴門市（徳島県） 20

合気道養神館本部道場

横浜武道館

株式会社 TABIKYO JAPAN

伊丹市

鳴門市

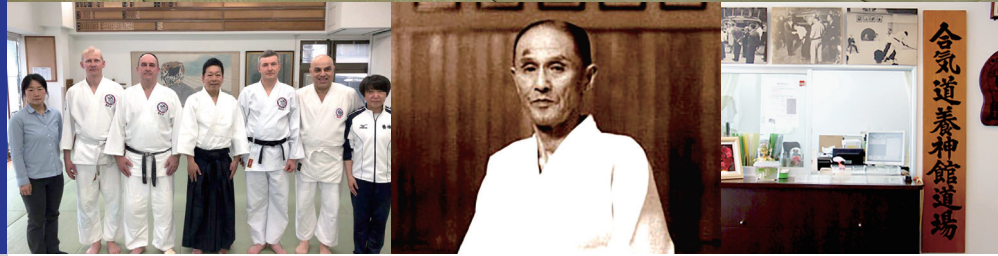
合気道 養神館本部道場

所在地

東京都新宿区高田馬場 4-17-15-2F
TEL.03-5371-6925
FAX.03-5371-6975

ホームページ

www.yoshinkan.net/



創始者の塩田剛三氏が
確立した実践的な技の
体験が魅力の合気道道場

体験可能な武道

合気道

施設概要

- ・合気道養神館は、1955年に塩田剛三氏が新宿区に設立した合気道の流派。
- ・国内はもちろんのこと、欧米諸国に至るまで、広く養神館合気道の普及活動が続けており、海外に25か国177道場、会員数は世界でおおよそ15,000人にのぼる。
- ・合気道の流派は複数あるが、当会の技と稽古は警視庁の研修に使用されるほど実践的なものであることが特徴。

受入開始時期ときっかけ

- ・1970年頃。
- ・その頃より外国人の門下生を受入れるようになったのだが、修業を重ねた外国人が母国に帰り教室を開き、そこで教わった会員たちが当館を訪れるようになった。今でも、このパターンでの受け入れが最も多い。

受入実績 このような人たちが来ました

- ・海外支部からの来館で多いのはロシア・ウクライナ。
- ・何事にも積極的な若い師範が多く、彼らが生徒を連れてくる。
- ・そのほかドイツやアメリカ、カナダなど。カナダは、本部道場で学んだカナダ人が多いことと、創始者の塩田剛三先生がカナダを訪れて当会を広めたことが要因。
- ・2010年頃より、一時的な体験希望のインバウンドを受入れも開始。こちらは大手旅行代理店が連れてきてくれるため参加者も多く、一度に100人ほどを受入れたこともある。

受け入れてよかった！

- ・普段は外国人と接する経験がない会員も少なくないので、良い経験になっている。
- ・合気道を通じた日本と外国との懸け橋という点でも意義は大きい

だから選ばれる！

- ・当会創始者の塩田剛三先生は海外でも有名で、先生の合気道を体験してみたいという理由で来館するインバウンド客は多い。

これが喜ばれます

- ・技をかけてみて覚えることを喜ぶ。
特に、実践的な関節技を教えてもらえることを喜ぶインバウンドが多い。

体験プログラムの内容

- ・体験参加者数が少人数の場合は門下生の普段の稽古に参加、人数が多い場合は体験専用の時間を設定。時間は60分で以下の流れ。
- ・① 礼儀作法
② 「構え」など単独での動き
③ 2人1組となつての技の掛け合い
- ・料金は基本的に1名2,200円。
(体験者専用の時間を設定の場合は2,500～3,000円)



技の掛け合いは特にうれしい



最初は礼儀作法から



門下生もうれしい交流タイム

今後の課題

- ・当会の流派にはいろいろな技があるので、参加者から「もっと多くの技を教えてもらいたかった」と言われた。時間がないことも理由の一つなので、せつかく来館してくれた人の満足度を高めるためにも体験時間を長くすることを検討中。

体験希望の際はこれをお願いします

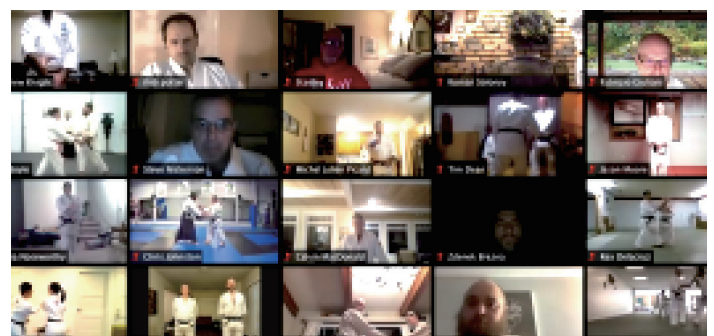
- ・受入れが難しいこともあるので、要事前連絡。その際は人数と時間を教えてほしい。
- ・道具の貸し出しはしていないので、参加者には動ける服装で来てもらえればOK！

今後の受入のためにこんなことやってます

- ・世界的なコロナウィルス流行の中、養神館では、海外の生徒向けに「合気道オンライン稽古」を実施。
- ・養神館本部道場と世界の支部・門下生をオンラインで接続し、師範による解説付きで型や演武の稽古を実施した。
- ・参加した海外の門下生からは、アンケートにて、日本の入国規制が緩和された後、訪日して道場へ行きたいという声あげられ、オンライン稽古による訪日意向の高まりという副次的な効果も確認された！また、「今後も行なってほしい」と言われたことも良かった。
- ・コロナで薄れていた海外支部とのつながりを保つとともに、海外の多くの人に当会を知ってもらう可能性もあるので、今後も当会独自のやり方でオンライン稽古を続けていきたい。



師範による解説付き演舞稽古



養神館本部道場と世界の支部・門下生をオンラインで接続

横 武 道 館

所在地

神奈川県横浜市中区翁町 2-9-10
TEL.045-226-2100
FAX.045-226-2110

ホームページ

<https://budokan.buntai.jp/>



誰でも気軽に参加可能、
“割って快感”板割り体験

体験可能な武道

空 手

施設概要

- 2020年7月に開業。アリーナフロアと観客席500席を備えた武道場を持つ施設。
- 本格的な武道場でベテラン講師による指導の下、板割り体験という気軽に参加可能な武道体験プランを提供。
- 訪日外国人やストレス発散目的、女性やファミリーなど、初心者層の参加を歓迎している。

受入開始時期ときっかけ

- 受入れは2021年より。
- 当時開業したばかりであった施設の認知度を高めることを目的として開始。
- 施設利用者数増加につながるコンテンツとして武道ツーリズムに着目していたことと、それまでの武道関係者との関係性から比較的協力を得られやすく、始めやすかったという背景もある。
- コンテンツを板割り体験とした理由としては受け入れのための準備が比較的容易であったことが大きい。

受入実績 このような人たちが来ました

- 令和3年度は30人程度が参加。
- これまでの参加者は日本人が多い。空手経験者よりも、これまで未体験であったが、体験してみたいという初心者の参加が中心。
- 女性グループや、小さなお子様を含むファミリーでの参加が多い。
- 外国人については外国語のパンフレットが用意できていないこともあり、参加者数は多いとは言えないが今後、増やしていきたい。

受け入れてよかった！

- できたばかりの施設であり、認知度向上のために始めたため、体験をしに来てもらうことで施設を知ってもらえることがうれしい。
- また、この取り組みを開始するにあたり、これまでの付き合いから空手団体に協力をしてもらえたこともありがたい。

だから選ばれる！

- 空手は、東京2020オリンピックでの日本選手の活躍もあり、国内でも注目度が高まってきている。
- ライトな空手体験であるが、特に「板割り体験」を強く打ち出していることで、空手に興味がある人の参加までのハードルを低く感じさせることができている。

これが喜ばれます

- ・日常ではできないことを体験できたとして喜ぶ参加者が多い。
- ・また、外国人にとっては武道が気軽に参加できるものではないと思っていたとして、体験できたことを喜ぶ声が聞かれた。



板に願いを書いて割れたら成就？



子ども一撃必殺



みんなで突き練習

体験プログラムの内容

板割りに至るまで下記の流れで実施。

- ・「空手道」について精神性を最初に説明
- ・準備体操をしてから動きの練習
- ・最後に練習の成果として、師範が板を持ち、その板を割るという流れ。
- ・所要時間は90分程度。
- ・料金は基本的に1名3,300円

今後の課題

- ・これまではプロモーション不足であった。3,300円という価格設定に見合う体験価値をできることを伝えるためのプロモーションをしていく必要がある。
- ・多言語でのPRも必要。武道団体との連携を上手に活用して、連盟から発信してもらったり、横浜市と連携して、横浜市事業としての実施についても検討する必要がある。

体験希望の際はこれをお願いします

- ・特段の準備は必要なし。動きやすい服装で来てもらえればOK！
- ・団体の場合、参加人数等については応相談。

今後の受入のためにこんなことやってます

- ・武道体験というコンテンツをどのように武道ツーリズムに昇華させていくか検討している。
- ・横浜市内の建造物、中華街との連携など多様な可能性があるため、武道を中心としながら観光コンテンツをどのように組み合わせていくかということと、ターゲット設定の方法なども含めて、全般的にブラッシュアップを検討中。
- ・そうした検討材料を落とし込み、少しでも早い段階でモデルツアーを実施したい。
- ・そのなかでは民間企業とのコラボレーションもしていきたいと考えている。ただ、企業にとってのメリットがないと協力を得られないため、Win-Winとなる形での連携方法について検討中。



最後は割れた板を持って記念撮影



願いが叶いますように！

半弓道場

所在地

岐阜県高山市朝日町 11
TEL. 090-1234-5959

ホームページ

<https://www.shorinjikempo.or.jp/>



山に囲まれた町、昭和4年から
続く、和弓を用いた遊技場

体験可能な武道

弓道

施設概要

- ・弓道よりも短い距離に設置された的に向かい弓矢を射る遊び体験。
- ・距離は短いが使用する弓矢は本格的なものを使用しており、40年以上大事に使われ続けている。
- ・観光地高山の歓楽街にあり、19:00-22:00の営業中、飲食を楽しんだ後、雰囲気惹かれて「ふらっと」立ち寄る観光客が多い。

受入開始時期ときっかけ

- ・当施設は1929年から続く歴史ある施設。
- ・2018年に事業継承し、初心者への対応や、外国人への英語での指導をスタートする。

受入実績 このような人たちが来ました

- ・高山は1980年頃から観光都市となることを目指して、観光客の取り込みに動いており、高山を訪れる外国人は多い。居酒屋街のネオンの様子などと合わせ、夜に外を歩く外国人がなんとなく誘われる歓楽街に道場が位置している。
- ・日本人と外国人の比率は半々程度。日本人の地元と観光客の比率は半分ずつ。
- ・外国人観光客の地域別内訳は、欧米系旅行者が多い。欧米系旅行者は、夜に食事を取らない宿泊施設や、食事場所を現地で決めるような旅行スタイルを選ぶ傾向があり、夜歩く余白があるような印象を受ける。外国人来場者比率で、おおよそ8割が欧米系である。

受け入れてここが良かった！

- ・自然環境や歴史的経緯もあって、一昔前の価値観が残る高山市。その文化の一部である道場を引き継いだが、高山の方には事業継承を感謝され、初めて来場される方が楽しんでくださることが嬉しい。
- ・特に外国人観光客は、日本人以上に本体験を日本文化や武道の一部と捉え、楽しみのリアクションが嬉しい。

だから選ばれる！

- ・当施設を知らずに高山を訪れる外国人が多いため、当館の立ち寄り理由も偶然店の前を通りかかったためという理由が多い。
- ・19:00からの営業なので、飲んでから当店の前を通りがかった時に、店の雰囲気や、弓が的に当たる音に惹かれて体験してみたくなり、入店する人が多い。

これが喜ばれます

- ・ 遊戯の要素に加え、気軽に日本文化（スポーツというより文化面）を味わえること、酔客、内外の旅行者が、的に飛ぶ矢の行方に一喜一憂する一体感。
- ・ 10本の矢を放って一本当たるか当たらないかの、難しさが、達成感とお互いを讃えあう雰囲気を作り出している。

体験プログラムの内容

- ・ 月曜日から土曜日19：00～22:00の一般営業中は弓矢10本で600円。1セット5～10分程度。混雑具合によるが、2回ほど楽しむお客様が多い
- ・ 団体貸し切りはそれ以外の時間で応相談となり1時間で6,000円（4名の貸し切りであれば1名あたり1,500円）

今後の課題

- ・ 居酒屋街の中の施設であるため、来場される時間が限定され、夜の営業であるため、高山に宿泊される観光客にしか認知されていなかった。
- ・ 2023年4月、近隣にテイクアウトカウンターを(事業者は、2017年より飲食店を運営)併設する半弓場を新設し、高山を昼間に訪れる観光客などにも認知を広げてゆく。

体験希望の際はこれをお願いします

- ・ 的が4つのため、同時に遊ぶことができるのは4名。
- ・ 施設の広さとスタッフ2名体制という状況のため1回の受入れは最大10名程度。人数が多すぎると対応が雑になってしまう。
- ・ ガイドさんが付き添い、射る順番を仕切るなどのサポートをしてもらうグループは対応しやすく、満足度も高いため、ご考慮いただきたい。
- ・ 旅行代理店様の誘客はありがたいが、確認事項などの対応が多いため、貸切などで対応させていただいている。



自分のタイミングで狙いを定めて



初めての人でも分かりやすい指南書



見学者も当たるか興味津々



狙いを定めてさあ射るぞ

今後の受入のためにこんなことやってます

- ・ 当施設は夜間のみ営業のため、高山に宿泊する方が体験できるのだが、昼間も半弓を楽しんでもらえるよう、2023年4月、高山市国分寺通りに昼間営業の半弓場を開場。
- ・ 平日の集客が欠かせないため、インバウンド顧客は引き続き大事なおお客様である。コロナ以前の平日は、半数近くが外国人であった。
- ・ SNSなどでのアピールより、「高山に来ている、もしくはすぐ行く、すでに到着している」顧客にフォーカスした宿泊施設向けと、旅行会社、個人に頼るクチコミなどを重視している。
- ・ ツアーガイドの方、宿泊施設の方にモニター体験などを行なっている。
- ・ そのほか、これまでインターネットでのプロモーションは独自サイトでのみ行なっていたが、貸切予約などでは、今後OTAの掲載を検討している。



みんな真剣に

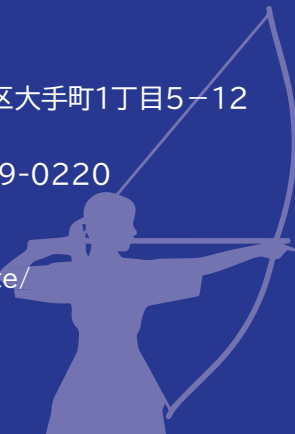
弓道体験道場 射楽 SHA-RAKU

所在地

広島県広島市中区大手町1丁目5-12
にしむらビル3階
TEL.080-6469-0220

ホームページ

sharaku.website/



広島で唯一の
弓道体験・和弓の射的が
できる体験型店舗

体験可能な武道

弓道

施設概要

- ・伝統的な矢場の様式に弓道要素を取入れ、和弓で遊べる体験型店舗
- ・未経験者でも気軽に弓道体験、和弓の射的ができる
- ・通常の弓道よりも的までの距離が近く、未経験者でも扱える弓矢を使用するが本格的な体験ができる。
- ・弓道は未経験者には安全性と指導が難しいため、本来なら独りで射れるまでに時間を要するが、5分程度の説明の後、体験が可能
- ・平和記念公園、原爆ドームが至近にあり、観光にも適した立地

受入開始時期ときっかけ

- ・2019年5月の開業以降
- ・開業10年ほど前から弓道をより多くの方に知ってもらいたい思いがあり、気軽に楽しめる現在の事業を着想していた。
- ・開業5年ほど前から広島へのインバウンドも増加している背景から、地元民、日本人観光客だけではなくインバウンドも取り込むことで事業が成立できると考えた。

受入実績 このような人たちが来ました

- ・2019年5月の開業からコロナが広がる2020年3月までの10カ月間で約3,000人ほどが来店。満員で断ることもあったため、利用者数は約2,400人ほど。
- ・2022年10月の訪日個人旅行解禁後から2023年3月の6か月間でFAT客が約300組、約600人が来店
- ・インバウンドと日本人の比率はおよそ50:50。
- ・インバウンドは、アメリカ、オーストラリア、ドイツ、フランス、イギリスの順が多い。広島の来訪者は欧米豪が多いため、当店への来店もそれに準じる。
- ・事前予約だけではなく、ウォークインもある。インバウンドも日本人も旅行中の隙間時間で観光先を探した際や店先看板を見つけて来店というケースも多い。
- ・5歳から受入れ。家族・カップル・グループで来店がある。

受け入れてよかった！

- ・利用後に正式な弓道を始めたいというお話から利用者の住まい周辺の弓道場、弓道教室、弓道部のある学校の紹介をするケースもある。外国人の場合は出身国の弓道連盟も紹介を行う。
- ・未経験者だけではなく経験者も遊びに来店し楽しんでいただけている
- ・観光コンテンツとして純粋に楽しみ、訪広の楽しい思い出としていただいている

だから選ばれる！

- ・当店は弓道体験だけではなく遊べる店のため、気軽さ、手軽さ、楽しさが選ばれている。
- ・利用時間が15分から1時間と短い時間で利用でき観光の隙間時間で利用ができる。
- ・当日予約（直前予約）ができウォークインでりようができる

これが喜ばれます

- ・利用者は、純粹に矢が的に命中すること
- ・的中の成績を競い合い勝負ごとにする
- ・写真、動画撮影
- ・周辺観光情報などの提供
- ・子どもの利用



集中して



体験プログラムの内容

- ・下記4種類の体験プランを用意
 - ①射ち放題60分 4,000円 (60 ~ 80本程度)
 - ②射ち放題30分 2,000円(30 ~ 40本程度)
 - ③おためし12本 1,300円 (所要時間15本程度)
- ※オプションで弓道胴着と袴のレンタル 1,000円

今後の課題

- ・認知度を高めること。インバウンド客が来日する前に知ってもらうこと、また来日後の来広前に知ってもらうことの取り込み拡大が必要。
- ・単独でのPR、事業拡大には限界があり、他事業者や行政等の連携をしてきたい。

体験希望の際はこれをお願いします

- ・当店の最大収容人数は最大8人まで。もし、それ以上の人数で来店希望の場合、分かれて時間をズラしていただく必要がある。半数が当店へ、半数が近くの平和記念公園や原爆ドームなどへ行ってもらい、その後に入れ替えるという形となる。また通常の営業時間中での対応となることから事前に相談をしていただきたい。

今後の受入のためにこんなことやってます

- ・認知度を高めること。有料広告を使用し幅広くダイレクトにリーチさせている。SNS広告、観光マップ報告など
- ・当店の事業内容を正確に伝え為のPR。ホームページを整備。営業時間やプランだけでなく、楽しめるポイント、受けることの多い質問についてQ&A形式で紹介して来店前に疑問を解消するなど、当店を知ってもらう、来てみたいと思ってもらえるような情報を掲載している。



みんなで一緒に



最後は記念撮影

有限会社 WAK JAPAN

所在地

京都府京都市中京区高倉通り二条上ル
天守町 761
TEL. 075-212-9993

ホームページ

wakjapan.com/jp/



日本文化体験サービスの 先駆け、豊富な武道体験 プログラムを提供

体験可能な武道

剣道・柔道・合気道など各種

施設概要

- 日本の文化体験をサービスとして提供した最初の企業
- 武道に限らず、お茶、華道、茶道、書道、料理教室など多様な文化体験サービスを提供
- 各武道とも、京都府内を中心とした協力道場における本格的な体験サービスを提供
- 各体験に独自の研修を重ねたアテンダーが帯同していることで、参加者の満足度を高めている

受入開始時期ときっかけ

- 1997年頃より受入開始
- 武道を含む伝統的な日本文化を世界の人たちに紹介したい思いから始めた。
- 代表の家族に武道経験者が多かったこともあり、コンテンツのひとつとして武道体験も提供
- 企業として初めたのは、文化体験がボランティアである必要はないという思いから。

受入実績 このような人たちが来ました

- インバウンド向けのサービスを提供している会社のため、これまでの参加者はすべて外国人客である。
- ホームページからの申し込みと、大企業の要望を受けた大手旅行会社からの依頼を受け、団体客に対して体験サービスを提供するケースとがあり、後者の比率が高い。
- いずれも武道レベルとしては初心者が大半。
- 国については、武道全般でみるとフランスからの参加が多い。
- ただ、武道種別によって異なる。剣道はヨーロッパからが多く、合気道はアメリカからの参加が多い。
- 近年は中国からの参加も増えている。

受け入れてここが良かった！

- インバウンド客に喜んでもらえることがとにかくうれしい。
- アテンダーなど、携わる人たちの能力を評価しての価格設定をしているが、そうした安くはない価格だからこそ、参加者自身も真剣になり、高い満足度につながっている。

だから選ばれる！

- 知り合いのツテを頼り、各武道とも信頼できる指導者に協力をしてもらっていることが大きい。
- また、その協力先の道場で体験を行うことが多いのだが、そこでは通訳も兼ねたアテンダーが同行している。特有の言葉も多い武道の精神やマナー、世界観を丁寧に説明することにより、参加者の体験満足度が向上し、紹介してくれる旅行会社からの信頼につながっている。

これが喜ばれます

- どの武道も自分で身体を動かす実技を喜ぶ。
- そのうえで、最後に指導者による実演を見せるととても喜ばれる。例えば、剣道の場合は指導者2人に実演してもらおうと、その迫力に感動する参加者は多い。
- ただ、そのためには指導者2人に協力してもらう必要があるため、その調整が難しい。

体験プログラムの内容

- 1回あたり90分程度。
- 大まかな要望を伝えるが、細かい内容は協力してくれる各施設の指導者に委ねている。
- 最初にマナー、参加者の実技、その後に指導者による実演という流れで進めている。
- 金額は武道種別によって異なる。
- また、非公開寺院など、特別な場所での体験の場合、場所代が大きく違うので、要相談。
- 2名以上から受付。

今後の課題

- 場所の確保。各武道とも、協力してくれる師範の道場で行っているが、特に弓道は京都府内で使用できる施設が非常に少ない。学校であれば弓道場を持っていることも多いが、そうした教育施設は営利目的の活動に対して場所を貸してもらいづらい。そのため、府外で施設を借りなければいけないこともある。
- 場所が確保できないための中止では参加希望者に申し訳ないため、確実に予定通り実施をするためにも各武道における場所の確保は重要な課題である。

体験希望の際はこれをお願いします

- インバウンド客の武道レベルを知りたい。それによって、初心者には初心者用を、経験者には経験者用のプログラムなど体験プログラムの内容を検討する必要があるため。
- 各武道の武具、道具を希望者に合わせて用意するため、はじめに身長など体格をお聞きする。
- 武道の先生のご都合もあるので、希望体験日はいくつか候補があると助かります。



先生の説明を真剣に聞く参加者



礼儀作法も武道体験の魅力



時には参加者も笑顔に

今後の受入のためにこんなことやってます

- 新型コロナウイルスの感染拡大後はほぼ参加者がいなかったためアテンダーの活躍の場もなかった。コインバウンド客が戻り始めているため、帯同するアテンダーの研修をして、受入体制を整備している。
- また、体験プログラムは当社で作っているが、今後は旅行会社と協力して、複数の武道を組み合わせたり、他の文化体験も組み合わせたパッケージプランを作れたら良いと考えている。
- 将来を見据えた話となるが、日本の子どもたちに文化を伝えたいという思いから、修学旅行も取り扱っている。今の子どもたちは日本のことについて知らないことが多い。子どもたち自身に、そのことに気付いてほしい。そうでないと、将来的に外国人に日本文化を伝えることのできる人が減ってしまう。当社だけでなく、今後はこのような日本全体としての根本的な受入態勢の整備が必要であると考えている。



剣道体験



合気道

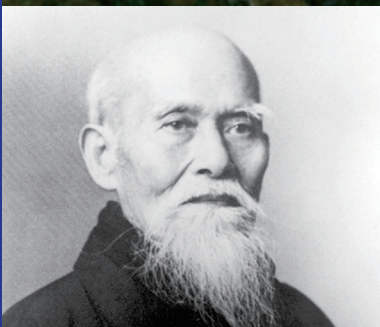
株式会社 TABIKYO JAPAN

所在地

京都府京都市左京区下鴨宮崎町119-1
TEL. 090-6697-5977

ホームページ

www.tabikyo-japan.com/



熊野の文化に触れながら 合気道の神髄に迫る旅

体験可能な武道

合気道

施設概要

- 熊野古道の魅力に大きく依存していた熊野エリアにおいて、エリアの魅力を活かしたコンテンツを造成、観光客の延泊、長期滞在につなげることを目的として、「合気道体験」と世界遺産「熊野古道」の魅力を活かした合気道ツーリズムに取り組む

取組(モデルツアー応募)のきっかけ

- 合気道精通者以外の旅行者への訴求としてとツーリズム化をする必要性と、さらに「世界遺産の熊野古道という文化的魅力」の組み合わせには親和性があり、大きな可能性を秘めていると感じ、スポーツ庁のモデル事業の公募があったため応募。

TABIKYO JAPAN の役割

- 事業推進に関わる全てのコーディネート。とりわけ合意形成に関わる場所では合気道関係者を中心に据えた現地事業者と市の関係者、販売元の田辺市熊野ツーリズムビューロー等への相互理解促進と新たなチャレンジの促進理解を推し進めた。
- コンテンツそのものの造成に関しては「現場視点」、「マーケット視点」を豊富な現場経験を踏まえて具体的にすべきことを整理し、関係者の役割を明確化して事業推進を実施。尚、すぐに対応できるガイドと未来のガイド、両輪の育成方針を実施し、持続性に厚みを持たせた。



武道と伝統の真髄に触れる



土地を感じる食事



熊野の自然との融合

モデルツアーの概要

- 合気道の魅力を伝えることをメインに地域の魅力も感じてもらえる2泊3日のコース
- ターゲットは合気道初心者層と熊野の精神性に魅力を感じているインバウンドツアーリスト
- 田辺市に来てまず合気道を感じてもらえるよう、1日目に合気道体験、2日目を以降、熊野古道に入り、合気道の創始者が感じた自然からのインスピレーションを感じることができる流れ。
- 1日目は地元の食材を楽しんでもらうことも交えた。植芝盛平氏が武農一如という言葉を残しているように”武道と農業とは一つ”という概念があったことに加えて地域の魅力としての発信もできるため。
- 熊野エリアに来訪後、時間ができた際に合気道体験を組み込みやすいようにすることを狙い、ツアーではなく合気道だけを体験できるコンテンツも作成。

ツアー造成のポイント

①合気道に精通したガイド

- 専門性や専門用語の多い武道や伝統に関わるガイドは単に語学ができるだけではガイドは難しい。
- そのため合気道実践者や合気道に精通した”即戦力”ガイド候補と、現在熊野古道ガイドをしている”未来”の合気道ガイド候補を集め、合同での研修を実施。ガイドの底上げを図った。

②ストーリー性

- 植芝盛平翁自身の事を「熊野の子」と伝えていたように熊野との親和性は高い。植芝盛平翁が熊野の森を守る活動をしていた神社や、近年の国際合気道大会の演武が開催された熊野本宮大社等、熊野古道を歩く動線にも合気道のとの親和性、さらに精神性でもつながる部分が多々あるストーリーとなっている。

ツアーにおける武道体験の内容

実際に教える先生とも相談し、以下の内容とした

- 植芝盛平氏についての説明(植芝盛平記念館を活用)
- 合気道家同士の演武鑑賞にて本物の合気道に触れる
- 礼儀・足捌き・投げ技・決め技・受け身・武器技
- 合気道の先生とのQ & Aの時間
- 体験のお土産として帰国後すぐに使える技が含まれている

参加者にはこれが喜ばれました！

- モニター参加者からは、先生の指導が良かったという評価が多い。特に武道の先生は「怖い」という印象が強いが非常に柔らかく穏やかで、それぞれのレベルに合わせた指導が非常に安心感を得られたそうです。
- 先生の演武。道場生にも来てもらい先生との演武を見せたところ、参加者は黙って見入っていた。先生の目つきが変わり、本気で投げている様子など、最後に本物をみれたという喜びが大きかった模様。

武道ツーリズム推進のポイント

①合気道の先生の協力取り付け

- 武道ツーリズムの根幹は本物を伝えることのできる指導者。
- 地元でも合気道に携わる人であれば誰もが知る合気道田辺道場の五味田潤一先生の協力を得られたため、関係者が同じ方向を向くことができた。

②地域のことを知る外部のコーディネーターが中心となったこと

- 地元民ではない人材が中心となったことで地元関係者の利害を客観的に調整でき、スムーズな事業推進につながった。
- マーケットに知見のある外部人材と、自走化の軸となる内部人材。両軸のバランスが噛み合い、これまで実現できなかった合気道のツーリズム化に成功。
- 武道・合気道と熊野との親和性ツアーとして取り組む設計はエリアのブランディングを意識し、旅行者と受け入れる側双方にとって違和感のないものとした。また現場対応するガイドや販売元にとっても、旅行者へエリアの魅力を伝えるツールとして更なる効果を発揮するものになった。

今後に向けた課題

【モニターツアーを踏まえての課題】

- モニターツアー参加者のニーズも踏まえて、コンテンツのブラッシュアップと更なる現場経験も必要。

【地域特有の課題】

- 予算に応じた様々な層を受け止められる宿の種類と数で来訪者にとって宿の選択肢が少ない。こうした宿に関する問題はどの観光地でも出ている問題でもある。

【武道ツーリズム特有の課題】

- 先生のスケジュール次第という面があるため、急な予約に対応しづらいこと。その際に代替案を提案できることも重要である。

今後の方向性

- 訪日前に知って興味を持たれるプロモーションもしたいが、ゴールデンルート上でない場所であるため、訪日してから知ってもらい、延泊してでも行ってみたいと思ってもらうためのプロモーションが重要となる
- 長年続くツーリズムとしていくためには、団体客よりも個人ツアーリストをメインターゲットとし、地域として無理のない形で受け入れていくことが重要と考えられる。
- そのためにも高価格でも満足してもらえる付加価値の高い提案が必要

久米島 古武道 ツーリズム

所在地

沖縄県島尻郡久米島町字仲泊730
TEL.098-985-2770
FAX.098-985-2833

ホームページ

kokyuutabi.com



「呼吸旅」～久米島アイランド道
「琉球古武道」×「癒し」！
島の魅力を存分に味わう
武道ツーリズム

体験可能な武道

琉球古武道

施設概要

- ・久米島の認知度拡大に向けた取組
- ・島とゆかりの深い古武道を活用した古武道ツーリズム
- ・時間がゆるやかに流れる「癒し」と、温かく島外の人を迎える「住民との触れあい」を組み合わせた久米島ならではの武道ツーリズムの形を目指す

受入開始時期ときっかけ

- ・2019年
- ・年間の来島者はおよそ11万人。島外在住の日本人やインバウンドにおける久米島の認知度は低い。ピークとなる夏場の閑散期の来島者を増やすことを目的として取組開始。
- ・古武道を広めた平良謙信氏の生まれ育った地であることを活かし、2019年に古武道の世界大会を開催したり、インバウンド参加型の古武道合宿を開催していた。そうした取組みに、「癒し」や「人と人との触れあい」を組み合わせた久米島ならではの魅力を組み合わせで来島者の増加につなげることが狙い。

受入実績 このような人たちが来ました

【FMくめじま】

- ・モデル事業の中心。島内でも顔を知られているFM久米島の宇江城氏の人脈を活用することで、必要な主体の協力を取り付けやすく合意形成も早いと考えたため、FM久米島を中心として動くこととなった。狙い通り、FM久米島の認知度が高く、県民とのつながりができているため、合意形成には困らなかった。

【久米島文化協会】

- ・事業の受付や連絡窓口となっている

【吉本道場】

- ・武道体験の受入れ



絶景ロケーションで行われる琉球古武道体験



女性ターゲットを意識した食事とヨガ体験



島の様々な絶景スポットでの体験が可能

モデルツアーの概要

- ターゲットを2パターン設定。
 - 国内の女性。新型コロナウイルスの感染拡大後、いろいろなことに疲れて久米島を訪れる20～30代の女性が多い。
 - 武道に興味のあるインバウンド。沖縄本島には武道を目的としたインバウンドが一定数いる。
- 女性ターゲットも考慮し、武道体験もライトにして、楽しんでもらうことを最も重視。
- モニターツアーは3日間で久米島全体を体感してもらうことを重視。武道体験の場所は平良氏のお墓の近くの芝生。青空の下で気持ちよく体験。
- 1日目は久米島を感じてもらう内容とした。
- 食事の内容は久米島のモノを使ったヘルシーメニューなども提供。
- 2日目に武道体験メイン。

ツアーにおける武道体験の内容

- 2時間のプログラムで最初は古武道の説明。空手との違いなど10～15分程度。準備運動も少し行い、そこまでで30分程度。
- そのあと武具の体験。棒術、犀術、ヌンチャクの3種類、各30分程度の使い方までで2時間。
- 沖縄の伝統文化としての古武道を正しく伝える。
- 沖縄は琉球王朝時代に薩摩に支配された時代があり、その時は武器を持つことが禁止されていた。その際に自らを守るために、農業をする中で使う道具を武器として使うなどしながら隠れて鍛錬していた。鉄甲、ヌンチャク、トンファなどはそうした農具が改良されて武器となったもの。そうしたことを説明したうえで、実際に武器を使った体験を通して古武道のことを良く知ってもらえるようにしている。



初心者にも丁寧に指導

武道ツーリズム推進のポイント

【FM久米島中心の体制】

- 認知度が高く、島民とのつながりができているFM久米島を中心としたことでうまく進んだ面は大きい。FM久米島を介して関係者間同士がこれまで何年、何十年とコミュニケーションをとってきた信頼感があるため、お互いを信頼でき、合意形成には困らず、事業が始まってからの動きもスムーズであった。

ツアー造成のポイント

- 久米島は山、海があり平地も広くないのでマイナスイオンが多い島。
- 癒しや、温かく来島者を迎える島民との触れあいも魅力。武道に偏らず、そうした久米島ならではの良さを感じることができる。
- 武道体験も含め、島全体の魅力を体験できることが久米島における琉球古武道ツーリズムのウリ。

参加者にはこれが喜ばれました！

- 海が見えるロケーションで、開放感を感じながら体験できた。
- 道着のレンタルによって、SNSで発信したくなる様な写真が撮影できた。
- 島の人との触れ合いで、あたたかさを感じ、また会いに来たいと思えた。
- 体験中に上達し、達成感を感じることができた。

今後に向けた課題

【インフラ整備】

- 観光客が増えた時のために整理しなければいけないものはホテル、交通などインフラ関係。
- 宿泊施設の不足は民宿の減少が要因。
- 交通は特にタクシーの少なさ。
- さらに来島のピーク時には居酒屋など飲食店も不足し、せっかく来島してくれたのに店に入れずコンビニで買って宿泊施設で食べるというケースも少なくない。
- インバウンド向けの案内表示も少ない。

【道場関係者のスケジュール調整】

- 道場関係者のスケジュール調整。本物の演武が喜んでもらえるポイントの一つ。そのために吉本道場の弟子4～5名の協力が必要だが、そうした協力者の時間を合わせる事が難しい。

【連携体制、受入体制】

- これまで島内に旅行会社がなかったことで受入体制に課題があった。新しく旅行会社が出来たため体制整備された面はあるが、インバウンド向けの通訳確保は引き続き課題。

今後の方向性

- 沖縄空手の一つとして打ち出すよりも、やはり琉球古武道という打ち出しで沖縄空手とは差別化を図る方向で検討中。
- 琉球古武道の小冊子を作成した為（日本語版、英語版）
- 座学も取り入れて、より理解度を高めてもらう。
- 沖縄はリゾート地、久米島は癒し。山、海があり平地も広くないのでマイナスイオンが多い島と言われている。そのため、武道に偏らず久米島の魅力をどう伝えるかが大きなテーマ。

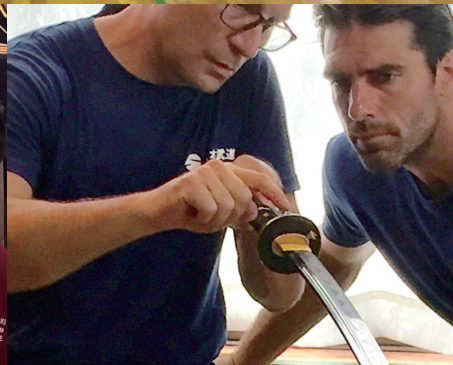
宮 崎 県

所在地

宮崎県宮崎市橘通東2-10-1
TEL.0985-26-7111（窓口案内）

ホームページ

www.pref.miyazaki.lg.jp



“剣道を通して宮崎を知る”

体験可能な武道

剣道

施設概要

- ・ フランス代表チームの受け入れをきっかけに取組開始
- ・ 宮崎県の“宝物”をつなげたツアーを造成
- ・ 武道体験は「竹刀の持ち方の意味」から伝えるなど、特に剣道経験者にとって魅力的な内容に

取組（モデル事業応募）のきっかけ

- ・ 2019年
- ・ 宮崎県は九州の他県と比較してインバウンドの来訪が少ない。インバウンドに来てもらうためにどうしたらよいか思案するなかで、武道は外国人に人気であるという理由から検討対象となった。
- ・ そうした折、2018年に剣道のフランス代表チームが宮崎県で合宿を希望して受け入れたことを契機として本格的に取り組むこととなり、2019年にスポーツ庁、2020年に観光庁のモデル事業として採用されて取組を推進。

連携主体

- ・ 2019年度に宮崎県、宮崎県観光協会、日本武道宮崎（NBネットワーク）、JUJUトラベルによる「ひなたMIYAZAKI武道ツーリズム推進協議会」を設立し、取組を開始

【宮崎県、宮崎県観光協会】

- ・ モデル事業の応募、関連主体の取りまとめ

【日本武道宮崎（武道用品メーカー）】

- ・ 道場の協力取り付け、モニターツアー参加者の手配、アテンド・通訳

【JUJUトラベル】

- ・ 移動バスの手配等



モデルツアーの概要

- ・「剣道を通して宮崎を知る」をテーマとした3泊4日のツアー。
- ・そこに神話で有名な高千穂、宮崎ならではの宝物をつなげたプラン

ツアーにおける武道体験の内容

- ・武道体験の前に、剣法発祥の聖地である鶴戸神宮に観光もかねてお参りに行き、「無事に合宿が終わるように」という願いをかける。それから礼儀の部分を教えた上で協力道場に行き体験してもらう。
- ・体験は90分
- ・内容は本物の剣道を教えることこだわった。例えば竹刀の持ち方について、そのように持つ意味から伝えるなどしている。
- ・試し切りも組み込んだ。高段者ほど、竹刀という丸みを帯びたもので切ることになってしまっており、刃筋の立ったもので切ることが難しくなる。ただ、これでしっかりと切れることが竹刀の打突力向上にもつながる。そうした意味を伝えて真髄を体験できる内容とすることで、特に高段者にとって魅力的な内容としている。
- ・礼儀作法も重視。剣道は致命傷を与えるもの。そうしたなかで「教える・教わる」というのは信頼関係が必要であり、そのために礼儀作法が大切なのだということを伝えている。危険なことをするからこそ礼儀作法が重要だと伝えている。人間関係を作るためにも、そうした作法や所作が重要だと伝えている。

武道ツーリズム推進のポイント

【モデルツアー参加者は“宮崎未体験の人”に声掛け】

- ・スポーツ庁モデル事業で実施したモニターツアーでは、フランスからの参加者の回とASEAN諸国からの参加者の回と各1回ずつ実施。
- ・フランスは、ヨーロッパの中でも一番剣道人口が多いため波及効果を期待したため。ASEANは日本武道宮崎とのつながりから。
- ・どちらも、剣道経験者でアーティストや料理人、剣道の先生など様々な人に声かけ。宮崎県を訪れた経験がない人を集めて実施した。
- ・ツアーの魅力、宮崎の魅力について客観的に判断してもらうことが重要と考えていたため。

ツアー造成のポイント

- ・「道」をキーワードとして、人としての学びが得られる体験をつなげたことがポイント。
- ・人間形成につながる体験をつなげることができた。
- ・宮崎県の武道ツーリズムの「ウリ」はそうした深さにある

参加者にはこれが喜ばれました！

- ・武道とツーリズムを合わせたものとしては、武道に興味ある方にツーリズムのドアを開けるとい意味でもよいアイデアだと思いました。
- ・剣道は単なる勝負ではなく、マナーや態度を学ぶことだと多田先生から教えられました。
- ・霧島酒造に行き、焼酎が作られる過程を見ることができ、とてもエンジョイしました。焼酎を飲まない私でも満喫できました。

今後に向けた課題

【剣道以外の武道への展開】

- ・剣道メインで進めてきたが、それ以外の武道にどのように広げていくか。居合道や杖道に加え、都城市が大弓の生産日本一であるため弓道にも広げたい。
- ・鶴戸（うど）神宮は拳法発祥の地と言われているので、そうしたものを活かすことも検討中

【宮崎県特有の課題】

- ・土地が広いと移動時間が長くなる。標識も外国人にとって分かりやすいとは言えない。そのため、外国人にとって移動の利便性が低い。まだまだ受入のためのインフラ整備が必要とは感じる。

【民間による自走】

- ・これまでのところ行政主導であるが、ツーリズムは民業のため、民間による自走化が必要。

今後の受入のためにこんなことやってます

- ・国の補助事業で作成した予約システムのプロモーションを実施し、本県の武道ツーリズムのことを知ってもらう必要がある。
- ・宮崎県として5S（スポーツ、神話、自然、森林、食）をキーワードに観光を進めている。そのうちスポーツが武道だが、神話とも親和性が高い。また、食なども絡めていき、そのストーリー性を高める。

鳴門市



所在地
徳島県鳴門市撫養町南浜字東浜 170
TEL. 088-684-1300
FAX. 088-684-1309

ホームページ
narutosc.jp/tourism/




第1回・第2回のモニターツアーとも柔道・空手・合気道・少林寺拳法の4種目について体験を実施

「多様な武道」に「独自の文化体験」を組み合わせた鳴門ならではの武道ツーリズム

体験可能な武道

柔道・剣道・空手・弓道・
合気道・少林寺拳法

施設概要

- ・市内で活動する武道団体の協力のもと、多様な種目から選択できる武道体験と、お遍路など地域特有の文化体験を組み合わせ、鳴門市ならではのオリジナリティの高い武道ツーリズム造成を目指す
- ・日本文化に興味のある外国人観光客をはじめ、スポーツ合宿におけるクロストレーニングや教育旅行との組み合わせなど、様々なケースに対応できる受け入れ体制の構築を目指す。

取り組みのきっかけ

- ・2021年3月、NARUTOスポーツコミッションを立ち上げ、スポーツ大会・合宿の誘致・開催、スポーツイベントの誘致・開催、スポーツ関連産業の創出、スポーツツーリズムの推進を取り組みの柱に設定。
- ・鳴門市の観光資源を活用し地域振興につなげるため、スポーツ庁の定めるスポーツツーリズムに係る重点事業のうち鳴門市で実施可能なものを検討した結果、武道ツーリズムに関する取り組みを開始。

受入実績 このような人たちが来ました

- ・2021年8月にNARUTOスポーツコミッションが主体となり、武道ツーリズム研究会を立ち上げた。参加団体と役割は以下の通り。
 - 【市内の武道団体】
武道体験の受入れ。(6種目7団体が参加)
 - 【市内観光事業者】
お遍路体験や酒蔵見学など文化体験対応(2社が参加)
 - 【鳴門市観光協会】
観光協会が認知している観光トレンドやコロナ禍の動向に関する情報提供、文化体験の事業者との調整等
 - 【観光振興課】
市内の観光資源を武道ツーリズムにリンクさせていくための方向性について、意見とアイデアを提供。



お遍路体験では実際にお遍路の恰好をして参拝



酒蔵見学では「本家松浦酒造場」蔵元自ら日本酒造りの歴史を説明



NARUTOスポーツコミッション
ポスター・ウェブサイト

モデルツアーの概要

- ・柔道・剣道・空手・弓道・合気道・少林寺拳法という多様な武道と、古くから地域に根付く文化体験として、お遍路体験、酒蔵見学、瞑想体験を組み合わせた。
- ・13:00～18:00で実施。先に武道体験してから文化体験とした。あくまでメインが武道体験であるということに加え、時間の融通が利きづらいという点で武道を先にした。
- ・令和3年10月に1回目のモニターツアーを実施。マイクロツーリズムのモデルケースとして市内の小学生とその親を対象とし、武道体験と瞑想体験・酒蔵見学を実施。
- ・2回目は、令和4年11月にインバウンドのニーズを捉えるためのモニターツアーとして、鳴門教育大学の留学生と市教育委員会所属のALTを対象として実施。武道体験とお遍路体験・酒蔵見学を実施。

ツアー造成のポイント

【多様な文化体験との組み合わせ】

- ・市内に各種武道の施設があるものの、発祥の地などと比較して武道との関連性が高いとは言えない。そのため、単独種目に絞るのではなく多様な体験をできるようにした。コア層よりもライト層の誘客を目指していきたい
- ・それでも武道体験だけで差別化は難しいため、お遍路体験、酒蔵見学、瞑想体験という文化体験も組み合わせることで鳴門市ならではの武道ツーリズムを目指す。
- ・文化体験は概ね好評であったが、組み合わせる体験内容についてはいろいろな可能性があると感じる。既存の観光資源（大谷焼作陶体験・藍染体験など）やなると金時やレンコンの収穫体験などと組み合わせることで多様なニーズに対応できるようにしていきたい。

モニターツアーにおける武道体験の内容

各種目とも実際に指導する団体と相談し、以下の内容とした1回目は60分×2種目で実施したが、指導者からの時間が短いという意見と参加者の体力的負担に配慮し、2回目は90分×1種目とした。

- ・各武道についての説明（歴史、礼の作法など）
- ・基本となる体の動かし方（空手であれば突きなど）
- ・指導者による演武
- ・武道ごとにミット打ちや防具を着用しての組手、技の指導など

参加者にはこれが喜ばれました！

- ・武道を見たことはあるが自分でやったことがなかったので、自分が身体を動かす形で参加できたこと、また、礼や作法など武道特有の空気感に触れることができたことを喜ぶ声が聞かれた。（モニターツアーの後実際に武道を習い始めた方もいた。）
- ・文化体験についても、お遍路体験は特有の衣装の装着、酒蔵体験は日本酒の製造過程の説明や試飲が喜ばれた。日本酒は知っているも飲んだことがないという人も多く、試飲して土産に買って帰る人もいた。



第1回武道ツーリズム研究会の様子



徳島新聞記事

今後に向けた課題

【体験内容の磨き上げ】

- ・モニターツアー参加者は未体験者のみであったが、それでも少し簡単すぎるという声も聞かれた。最適な運動強度、内容について今後も精査していく必要がある。

【受入態勢】

- ・指導者のスケジュール確保は大きな課題。鳴門に来て武道ツーリズムの存在を知り、やってみたいとなっても即座に指導者を確保することは難しい。ホームページ等で事前予約ができるシステムの構築が必要。また、自前の道場がなく自治体や学校の施設を借りている団体もあり、その場合は場所についても市側で用意する必要がある。

【旅行会社の協力を得るためのハードル】

- ・旅行会社の協力を得るためには商品価値があるとみなしてもらおうためのレベルに持っていく必要がある。また、上述の受入の不安定さを解消できないと旅行会社としても商品案内をしづらいという面もある。

武道ツーリズム推進のポイント

【武道団体の協力取り付け】

- ・武道団体の協力がなければ始まらないため、その協力を取り付けることが最も必要。ただ、団体担当者においても「武道ツーリズム」についてよく分からないという人が多かったため、各武道団体に対し、武道ツーリズムの概念から説明した。
- ・特に、「スポーツを通じた地域活性化の手段のひとつとしてスポーツツーリズムに取り組んでおり、武道体験と文化体験を組み合わせたい鳴門ならではの武道ツーリズムを構築したい」という意図を説明。その趣旨に賛同してもらった団体に武道ツーリズム研究会に参加してもらうことができた。
- ・武道団体としても旅行者が主たる対象であることから門下生の増加など直接的なメリットが少ない中ではあるが、各種目の普及に加え、武道自体のPRにつながることを期待できるという賛同もいただけた。逆に言えば、普段から武道自体や各種目のPRができていないと感じているようであった。

今後の方向性

- ・多種目で実施しているため、各武道ごとの指導手法やタイムスケジュールにおいてある程度の同一性を保つ必要がある。品質を担保するために各武道団体ごとにヒアリングを行い、体験を行う際のマニュアルとなる各武道ごとのベーシックプログラムを策定する。R4年度はテストケースとして少林寺拳法のベーシックプログラムを作成し、今後これを基に他団体についても制作を進める。



令和4年度 スポーツによる地域活性化・まちづくりコンテンツ創出等総合推進事業

別添資料 武道ツーリズム取組事例集

令和5(2023)年3月

スポーツ庁